

臨時号



保健便りけんこう

平成26年10月21日(火)
熊谷市立玉井中学校
保健室

保健便り けんこう 10月号で、2年生対象に「生命の授業」を行ったことは既に紹介しました。(H26. 9. 26実施)
授業後、2年生全員が感想を書きましたので紹介します。



学校教育目標
「志を高く、夢を大きく、
日々努力する生徒を育てる」

「生命の授業」

くまがやピンクリボンの会 栗原和江代表



※くまがやピンクリボンの会

「乳がん撲滅」「がん検診率向上」のための啓発活動 学校教育の場へのがん教育等の活動を行っています。

- 今回の授業を受けてがんに対する思いが変わりました。「がん＝死」という思いが強かったけど、努力をすれば完治できることがわかりました。
それと、りえちゃんの話聴いていて涙が出ました。「生きてくても生きられない」そんな子の思いを、生きている一人一人が背負って生きていきたいです。
りえちゃんは永遠に僕の心の中に生き続けます。これからは、りえちゃんと一緒に日々努力し頑張っていき、勉強でも運動でも結果を出していきたいです。
- 「がん＝死」というのが今までの私の考えだったが、「がん≠死」なんだと思います。今までは、くだらないことで「死にたい」とか「存在価値などない」など思ったことがありましたが、今ここにいるのはキセキなので、このキセキを大切に日々生きていきたいと思いました。
体と心がつながっているというのは共感できます。私は人としゃべるのが苦手、人の視線が怖い時があります。こんな時に頭が痛くなったり、手から汗が出たりするからです。体を大切にするために、心も大切にしようと思います。
- 日本の女性の中では、4人に1人が乳がんになると聞いたので気をつけなければと思います。でも、必ず死ぬわけではないと聞いてほっとしました。
そして、いつも普通に過ぎてしまう1日でも、大切な1日なんだなと思いました。
- がんは治療をすれば治るということがわかりました。大人になったら、定期的に検診を受けるようにしたいと思います。
りえちゃんは、がんになっても人を思いやることを忘れずに過ごしていてすごいなと思いました。
- 今日があることは当たり前ではない、明日が来るのも当たり前ではないということがすごくよくわかりました。もっと人を大切に、自分を大切にしていきたいです。



• 特に心に残ったのは、りえちゃんの手紙です。りえちゃんは、自分が病弱な体であったにもかかわらず、一番に相手のことを思う気持ちを、りえちゃんの手紙で知ることが出来ました。

• 乳がんは、男の人にもなると聞いたので、父にも話したいと思います。

• 自分は大丈夫と思っていても、病気やがんになってしまう可能性はゼロではないので、自分も周りの人もしっかり検診を受けたいです。家族にもがん検診を勧めようと思います。



• 「みんなちがってみんないい」みんなが一人一人のことを理解しなければいけない、サバイバー差別をなくさなければならぬということがわかりました。今、私たちが生きていることはすごく幸せなんだと改めて思いました。

• お母さん、お父さんにも健康診断に行った方がいいと言いたいです。また、7歳で亡くなったりえちゃんに生きる勇気をもらいました。ずっと病院にいても何一つ文句を言わないところはすごいです。僕も、これから1日1日を大切に生きていきたいです。

• 娘さんのがんで亡くした方の実話はとても心に残りました。いつ治るかもわからないがんと2、3歳の時から文句ひとつ言わずに闘うりえちゃんと、時期外れのぶどうを探し求めてりえちゃんが元気になるようにと支える周りの人たちの姿にじ〜んとしました。

• がんの原因にたばこがありました。お父さんがたばこを吸っているので、やめてもらいたいです。そして、両親には検診に行っていて欲しいです。

• 私は、小さな女の子の話が心に残りました。私は、明日が休日だと嬉しくなります。逆に次の日が平日だと嫌だなと思う時があります。しかし、この話を聞くと、明日が当たり前にあることが幸せなことなのだと改めて思いました。

• 今年も生命の授業を受け、がんの知識をより深く知ることが出来ました。がんの出来る仕組みや主な原因を知り、がんや生命の見方も何となく変わったような気がしました。

自分の命がとても大切で、自分が生きていることが奇跡であることは、とてもすごいことだと改めて感じました。



★ 2年生のみなさんの感想は、お話をしていただいた栗原様にお渡ししました。

